

【実践報告】

## 平成28年度看護学科における国際看護学Ⅱの海外研修(タイ王国)報告

# Report of the Fourth Study Tour in Thailand in the Department of Nursing, 2016

金井 優子, 横川裕美子

### 要旨

人間健康学部看護学科では、国際的な視野を持ち、異文化を背景とする人たちへの看護を学ぶ国際看護学Ⅱを実施した。参加した学生は、異文化の生活に最初は戸惑いながらも、タイの人々と少しずつ交流を広げながら、タイの保健医療について研修した。また学生は、現地の看護学生と意見交換を行い、言語は違っても同じ看護を志し、学んでいる学生がいることに刺激を受け、自身の課題を新たにする学びを得たので報告する。

キーワード：国際看護，異文化看護，国際保健医療，海外研修，看護学生

### I はじめに

本学の国際看護学Ⅱ（海外研修）は、平成25年度から開講し、平成28年度は4回目の実施となる。

本科目の特徴は、学生参加型のプログラムを中心に研修を企画していることである。平成28年度の国際看護学Ⅱは、タイ国内でHIV/AIDS予防活動を展開しているタイ財団Health and Share Foundation（以下、HSF）の活動地において、NGOによる地域に根差した保健活動（HIV/AIDS予防活動）の視察、住民との交流、看護学生とのフィールドワーク・交流、タイの医療施設の訪問を行った。

### II 科目の目的と目標

#### 1. 科目目的

平成28年度の国際看護学Ⅱの目的は、「開発途上国・地域を訪問し、現地の人々やNGOスタッフとの交流を通して異文化を理解するとともに、国際保健協力活動の実際を学ぶ」である。

#### 2. 科目目標

- 1) 現地の人々との生活や交流を通して、文化的背景が異なる人々の生活様式や価値観、考え方を理解することができる。
- 2) 共通言語が異なる人々とのコミュニケーションに

ついて考えながら実施することができる。

- 3) HIV/AIDS陽性者や家族の生活や健康課題を学ぶ。
- 4) 現地の保健医療事情を知り、国際保健活動の実際を理解することができる。
- 5) 文化的背景が異なる人々に対する保健や看護の在り方を考えることができる。

### III 科目概要

1. 履修条件：国際看護学Ⅰ（国際看護や異文化看護の基礎を学ぶ）単位を修得していること。
2. 履修対象年次：2年次～4年次を対象  
※今年度は8名の学生（2年次3名、3年次5名（うち編入学生2名））が受講した。

#### 3. 科目内容

##### 1) 事前学習および事前研修

- ① タイと日本の概要、医療保険システム、文化、宗教、食べ物について
- ② HIV/AIDSに関する基礎知識
- ③ 語学（タイ語と英語）
- ④ グループアクティビティの企画、準備
- ⑤ 名桜大学および看護学科について

##### 2) 海外研修（10日間）

- ① NGOのHSFによるHIV/AIDS予防活動視察
- ② タイの概要、医療保険システムについて
- ③ 看護学生との交流・フィールドワーク

- ④ タイの生活を知る（ホームステイ4泊5日・タイ日文化交流会，寺院参拝）

3) 帰国後報告会

4. 研修国・地域

タイ王国東北部に位置するウボンラーチャターニー県およびバンコク市

5. 研修費用

学生一人当たりの研修費用はおおよそ15万円（往復航空券，現地での交通費および食費，宿泊費，文化体験費，HSF調整費，通訳費，見学費等含む）である。

IV 研修日程と研修内容

1. 事前学習および事前研修内容（表1）

海外研修に先立ち，学内にて事前学習および事前研修を実施した。学生は，HIV/AIDSについて，日本・沖縄の文化について，名桜大学について，名桜大学と看護学科についてそれぞれ事前学習し，学びの共有をした。

タイの人々と交流することを目的としたアクティビティは，企画から準備まで学生が担当した。アクティビティを事前に練習し，タイの人たちが分かりやすいように学生同士で修正しあった。さらに，アクティビティで

表1 事前学習・事前研修の日程と学習内容

日付	内容
6月3日(1コマ)	国際看護学Ⅱコースガイダンスと今後の日程の確認，事前学習事項と事前準備(アクティビティ)の説明
6月16日(1コマ)	学生リーダーとアクティビティグループの決定，事前学習内容の確認と担当学生の決定，事前学習日程の確認
6月29日(1コマ)	事前学習の共有会① (タイの概要と文化/宗教について，日本・沖縄の概要と文化について，HIV/AIDSの基礎知識)タイでの宿泊調整，連絡事項
7月9日(1日)	事前研修会(NGO シェア=国際保健協力市民の会に依頼) (ウボンラーチャターニー県の概要，HIV/AIDSの基礎知識，HSFの概要，簡単なタイ語，旅行上の注意について)，個人の目標設定
7月15日(1コマ)	アクティビティ中間発表 (対象に合わせたアクティビティをグループごとに発表し，修正・確認および準備物品の確認をした。)
7月29日(1コマ)	事前学習の共有会② (名桜大学について，看護学科について)
8月15日～8月17日(3日間，5コマ)	タイ人留学生2名をSAとした集中タイ語講座 (タイ語の簡単なあいさつ，自己紹介，よく使う単語，疑問詞，発音と声調の基本，アクティビティで使うタイ語の練習)
8月18日(1コマ)	アクティビティの最終確認
8月24日(1コマ)	出発前オリエンテーションと海外での安全対策，健康管理について

使うタイ語を事前に練習した。

7月9日の事前研修は，(認定)特定非営利活動法人シェア(以下，シェア)へ依頼した。シェアの活動歴史とHSFの成り立ち，HIV/AIDSの基礎知識について，簡単なタイ語について，タイの文化とマナー(注意事項)について学習した。

タイ語講座は，タイ人留学生2名をSAに依頼し，基本となるタイ語のあいさつ，自己紹介，アクティビティで使うタイ語の練習等の講座を実施した。

2. 海外研修

1) 海外研修期間：2016年9月1日～9月10日

2) 研修の日程(表2)

表2 研修の日程

日数	日付	内容
1日目	9月1日	沖縄からタイ王国(バンコク市)へ移動 宿泊：ホテル(バンコク市)
2日目	9月2日	バンコク市からウボンラーチャターニー市へ移動 NGO HSFの活動紹介，簡単なタイ語，タイの文化についての研修 宿泊：ホテル(ウボンラーチャターニー市)
3日目	9月3日	ウボンラーチャターニー市から活動地のケマラート郡へ移動 MSM(男性同性愛者)リーダーによる中学生を対象とした性教育の見学，中学生を対象としたアクティビティの実施 ホームステイ先のフアナー村へ移動，フアナー村の歓迎会，ホームステイ先へ移動 宿泊：ホームステイ(ケマラート郡)
4日目	9月4日	HIV/AIDS陽性者自助グループリーダーの活動紹介，家庭訪問支援活動視察 通訳とアクティビティの打ち合わせ 宿泊：ホームステイ(ケマラート郡)
5日目	9月5日	HIV/AIDS陽性者自助グループ月曜定例会へ参加，月曜定例会参加者へのアクティビティの実施 ケマラート郡HIV陽性者ケア病院訪問 宿泊：ホームステイ(ケマラート郡)
6日目	9月6日	寺院参拝 フアナー村ヘルスセンターでのプライマリケア活動とヘルスポランティアの活動について サンバシット看護学生合流，フィールドワーク(高齢者家庭訪問) サンバシット看護学生と意見交換 タイ日文化交流会・スクワンの儀式，学生による文化紹介 宿泊：ホームステイ(ケマラート郡)
7日目	9月7日	ホストファミリーとお別れ ケマラート郡からウボンラーチャターニー市へ移動 ウボンラーチャターニー県立病院視察 サンバシット看護学校訪問，看護学生との交流，2日間の学びの振り返り，学生による文化紹介 宿泊：ホテル(ウボンラーチャターニー市)
8日目	9月8日	ウボンラーチャターニーからバンコクへ移動 宿泊：ホテル(バンコク市)
9日目	9月9日	バンコク市内視察(王宮，寺院参拝) サミティヴェート病院見学 宿泊：ホテル(バンコク市)
10日目	9月10日	帰国

### 3. 帰国後報告会

学長への表敬報告を11月7日に実施した。また、看護学科での研修報告会を11月10日に実施した。海外研修の報告内容は、学生が担当した役割を中心にまとめ、研修ごとの学びと個人個人の学びを報告した。

## V 海外研修の実際と学び

### 1. 科目目標と研修内容および学生の学び（表3）

事前研修を重ねてタイを訪問したことにより、学生は異文化に親近感を持ち、理解を深め、タイの保健医療事情について積極的に学ぶことができた。

研修期間中は、HSFをはじめ、ホストファミリーやホストビレッジに支えられ、訪問先々で手厚い歓迎を受けた。タイの人々への自己紹介や交流にて、学生は習ったタイ語を駆使し、タイの人々に大変喜ばれた。学生は、タイの人々の笑顔に支えられ、少しずつ緊張が解け、研修後半には受け入れていただいたことに深く感動していた。学生は、非言語的コミュニケーションの大切さや、「伝えたい」気持ちと「わかりたい」思いが言葉よりも重要であることを学んだ。4泊5日のホームステイでお世話になったホストファミリーと別れる朝は、親しくなった家族と別れるさみしさで学生の目から涙があふれていた。

また学生は、異文化生活を体験し、入浴の方法やトイレの様式の違い、清潔の概念の違い、食生活の違いに戸惑いながらも、恐る恐る体験し、少しずつ受け入れ、「違いを楽しむ」ことができるまでに成長を見せた。さらに、

村の人々が気軽に声を掛け合い、助け合って生活している様子に、学生は近隣住民のつながりと助け合える心の余裕を感じ取っていた。

タイの保健医療システムの学びでは、ヘルスセンター、郡病院、県病院、そしてバンコク市の私立病院という、医療レベルを段階的に見学したことで、その現状と課題を学生なりに考えることができた。課題を改善するためには、相手の置かれているその背景を理解することの必要性に気づくことができた。学生は、国際看護の実際を学べたことが自信につながったようである。

さらに看護学生との交流では、言語の違いを超え、同じ看護を学ぶ者同士としてのつながりを体験し、自分も負けれないといと大いに刺激を受け、触発されたようである。

HIV/AIDS陽性者の自助グループ活動（当事者同士で支え合い、励まし合い、勇気づけられる姿）には、学生の思い描く看護師像に「相手を思い支え合う」ことが深く刻まれた。

### 2. 今後の課題

今回の課題として、研修中の10日間は過密日程であり、ホストファミリーと過ごす時間や、日々の学びを振り返る時間などが不十分であった。研修後半には、疲労から体調不良を訴え、現地病院を受診した学生もいた。学生に無理なく、かつ学びの多い研修日程を検討する必要性がある。

さらに、研修期間中の学生の安全を確保し、かつ緊急時にも対応できるように、現地の事情に精通した現地

表3 科目目標と研修内容および学生の学び

科目目標	研修内容	学生の学び
1) 現地の人々との生活や交流を通して、文化的背景が異なる人々の生活様式や価値観、考え方を理解する	①ホームステイ（4泊5日） ②タイ日文化交流会（アクティビティの実施） ③スクワンの儀式④朝の托鉢（お布施）、寺院参拝	文化の違い、生活様式の違い、食生活の違い、衛生概念の違い、家族の形態や家の造り、近所づきあいなど、さまざまな違いについて学んだ。 生活に根差した宗教を体験し、信仰の教えが人々の日常生活にも影響し、人々の絆を深め、相互に支え合っていることを学んだ。
2) 共通言語が異なる人々とのコミュニケーションについて考えながら実施することができる	①研修期間を通して、タイの人々や看護学生との交流、フィールドワーク	言葉が通じなくても、積極的に伝えようとする姿勢や、わかろうとする心、そして「笑顔」が重要である。世界には、「看護」を学ぶ同志がおり、「私も負けれない」と学生を奮い立たせた。
3) HIV/AIDS 陽性者や家族の生活や健康課題を学ぶ	①HSFの活動視察 ②HIV/AIDS陽性者自助グループリーダーによる家庭訪問活動に同行 ③HIV/AIDS陽性者自助グループ月曜定例会への参加（アクティビティの実施） ④MSM（男性同性愛者）リーダーによる中学生への性教育（アクティビティの実施）	HIV/AIDS陽性者の生活は、一般の人々の生活と変わらないこと、長期服用の困難さ、生活上の課題（就業が困難になり家計が困窮しやすい）、副作用と服薬中断による悪影響を学んだ。そして支援者は、思いやりを持って接し、根気強く関わること、自立を目指した支援をすることを学んだ。 中学生への性教育では、自身の体や生活を守ること、思春期の体の変化と男女の体の違いなど、羞恥心を感じさせない具体的な性教育の方法を見学した。
4) 現地の保健医療事情を知り、国際保健活動の実際を理解できる	①HSFの活動視察 ②ヘルスセンター看護師の家庭訪問に同行 ③ヘルスセンター、郡病院、県病院、バンコク市内の市立病院訪問・見学	患者さんのプライバシーの保護や、療養者の人権の尊重の違いに衝撃を受けた。しかし、それには背景があり、改善するためには、その背景を理解したうえで改善を求める必要性を学んだ。
5) 文化的背景が異なる人々に対する保健や看護の在り方を考えることができる	①サンパシット看護学生とのフィールドワーク、看護学校訪問、看護学生との交流会 ②医療施設、病院の訪問	国や言語は違っても看護を学ぶ仲間がいること、英語学習により世界が広がることを学んだ。 タイの看護に学生は、「ゆったりとした」印象を受けていた。患者さんに笑顔で接することで不安が和らぐことを学んだ。

コーディネーターが必要と考える。

次年度は、これらの課題を改善し、安全な研修となるよう、研修の内容および日程調整を検討していきたい。

## VI 国際看護学Ⅱを終えて

国際看護学Ⅱの開講にあたり、4月の学生募集から帰国まで、教務課職員及び看護学科教員のご理解とご協力をいただき、また支えていただいたおかげで、無事に実施することができた。心より感謝を申し上げる。

平成28年度の国際看護学Ⅱを受け入れていただいたHSFとの調整は英語であり、お互いに細かい表現が難しく、研修内容の調整が大変困難であった。しかし、HSFが万全の準備で迎え入れてくださったおかげで、地域住民から暖かく歓迎され、学生は日々を楽しく、そして深い学びを得られる研修となった。

受講した学生の学びや感銘を受けたこと、印象に残ったことはそれぞれ異なっている。しかし、全員がタイの人々の「笑顔」に心が解きほぐされ、非言語的コミュニケーションのすばらしさを、身をもって経験したと感想を残している。そして、患者さんの不安を「笑顔」で解きほぐせるような看護師を目指したいと新たな看護師像を胸に刻むことができた。

受講した学生には今後、学生生活や自身の目指す看護師像、そして将来の進路選択にこの研修からの学びを活かしていただきたい。